

全林研会長賞

神奈川県

小田原林青会

所在地 神奈川県小田原市

設立 昭和38年4月

会員 男16人

年齢 29歳～55歳 平均35歳

主なプロジェクト

林業の普及啓発

(地域の資源にその地域の子とたちが触れ合う場を提供し、木の良さ、自然の大切さを伝える。)

1.地域の概要

当会が活動する小田原市は、神奈川県の西部に位置しています。相模湾に面し、中心には酒匂川が流れ、箱根、足柄の山々に囲まれています。気候は温暖で、山地は森林、丘陵地はみかんや梅の栽培が盛んで、農業、工業、漁業と幅広い産業が営まれています。森林率は約37%で、森林面積の約98%が民有林であり、そのうちスギ、ヒノキの人工林は68%を占めています。森林に恵まれた地域であり、古くから林業・木材産業が盛んでした。箱根町に接する久野地域では良材が生産され、製材業や小田原漆器などの木工業も盛んに行われていましたが、需要の減少、木材価格の低迷により林業、木材産業活動を取り巻く状況は厳しくなっています。

2.会の概要

当会は小田原地区において木材業に従事している若者が集い、昭和38年に設立しました。現在の会員の親世代が立ち上げて以来、46年の歳月を重ねています。近年は新規の若手会員が少ない状況で、平成19年に会員の最高年齢を55歳までとする会則にし、現在16名の会員で活動しています。

会では、木に触れる、木を考える、木を学ぶ、という3つのキーワードを掲げ、木材の普及啓発、会員の知識の向上を図り、木材業界に貢献

することを目的としています。

3 .活動状況

木材PR活動

夏休み企画として、地元小学生の親子を対象とした親子木工教室を、これまで22回開催してきました。会員がイス、CDラック、プランターなどをキットにして用意し、参加者はかなづちと釘を使って作りたいものを製作します。キットは、地元の生産森林組合の所有森林での間伐材を含め、神奈川県産間伐材を使用しています。

会の先輩方が、私たち世代に伝えたかったこととして「地域とのふれあいの大切さ」があります。私たち材木店は、地域の中で誕生し、地域の中で育てられています。地域の資源を、その地域の子供たちに扱ってもらい、資源と地域のふれあいの大切さを感じてもらいたいと考えています。

開催当初は木工製作だけでしたが、8回目からは県と共催で開催し、県の林業普及指導員が製作を終えた参加者に、森に関するクイズや話をしています。また、役員会、定例会での活動内容の打ち合わせや、活動終了後の反省会では、ざっくばらんに意見を出し合い、昨年からは、直径30cmのヒノキ丸太の木挽き実演や、鉋屑のプール遊びなどの新たな体験コーナーを設けました。

参加者には、製作は楽しかったという感想だけではなく、木材業の歴史や木の良さ、木のことを、体験を通して知ってもらうことが開催主旨であるゆえ、いろいろな面から木に触れ合えるように工夫をしています。

開催前には、地域の小学校にチラシを配布していますが、昨年作っていないものを今年は作ろうという、リピーターが増えるとともに、地元のケーブルテレビやタウンニュースで取り上げられ、毎年延べ500名の参加があります。

この親子木工教室の開催をきっかけとして、昨年から地域の行事への参加依頼があり、積極的に参加を始めています。

そのひとつとして、寄木や漆器など地域の木製品を一堂に集めたイベントである「小田原・箱根木製品フェア」では、木挽きの実演体験コーナーを設けるとともに、当会で考案した地元材でつくる災害用簡易施設「こゆるぎ八

ウス」の展示PRを行いました。

また、県教育委員会が主催する「ファミリーチャレンジ！小田原フェア」では、これらに加えて、小径木の丸太を輪切りにし、穴をあけてペン立てを製作する体験コーナーを設けました。

最近では、小学校のPTA会からの依頼で出前木工教室も行いました。



こゆるぎハウス

出前木工教室は、親子木工教室と形式を変えて、製作にかかる前に山や森、そして木材についてクイズを交えながら説明を行いました。説明の前に「木を伐ってはいけないと思うか？」と参加児童に質問をしたところ、ある児童は「自然環境破壊になるので伐ってはいけない。」と答え、他の児童も多くが手を挙げていました。説明後に再度同じ質問をしたところ、数は減ったものの依然として数人の手が挙がりました。

焦点を絞って説明しなければ、本当に伝えたいことが伝わらず、わかりやすく伝えることの難しさを感じました。

視察研修、勉強会

全国各地の木材産地や市場、木造建築物の視察や、木材や流通に関する題目で講師を招き、勉強会を開催しています。こうした研修、勉強会は会員自身が木材のプロとして、ユーザーに伝えていくための知識を蓄える、自己啓発の場となっています。

4. 今後の課題・取り組み

親子木工教室への参加費は無料であり、会員の会費と関連団体からの助成金により運営している状況です。今後も持続して活動ができるよう、運営を模索・検討していきたいと考えています。

また、参加者に対して行ったアンケートから、木工製作は「初めてかなづちを使い、重くて難しかったが楽しかった。」「木を触ったら良いにおいがするし、温かった。」「また参加したい。」「クイズは「勉強になった。」「学校では習わないことだがわかりやすかった。」などの感想がありました。

出前木工教室でうまく伝えきれなかった点は課題として、今後は地域の事業として定着してきた親子木工教室(木育活動)をさらに踏み込んで活動をしていきたいと考えています。

具体的には、植林 下刈り 間伐・主伐 製材 木工キット作り 木工教室 植林として、物事は循環していること、物事には間があること、1つのことは一連の流れの中の一過程であり、また非常に大切な過程であることを伝えるべく、年間行事として、テーマごとにイベントを開催していきたいと考えています。そして、多くの方々に木に触れることで、木の良さ、自然の大切さを理解していただきたいと思います。

5 .おわりに

近年、当会の会員数は年々少なくなっています。当会は木材店の有志が集まって構成されており、その木材業が衰退して維持できなくなっているのが理由です。しかし、地域の木材店は必要だとも私たちは考えています。

スローフードやスローライフが世間で話題になるとともに、21世紀は地域と環境がキーワードになるとも言われています。そして、環境にやさしい木材と先人たちが築きあげた日本特有の建築文化は、これからの日本にとって必要だと考えています。

これからの材木店は時代の変化に対応し、昔からの良いところを守りながら、いつの時代も、山・木のことを考え続ける使命を持って経営をしていくべきです。それゆえ、少なくとも私たちが生まれ育ち生活している地域は私たちの手で守り続け、子供たちに大切なことを伝えられるよう活動していきたいと考えています。

ゆくゆくは、市のシンボルであり、鉄筋コンクリートで外観復元されている小田原城天守閣が復元される際には、地域の間人「小田原人」として地域の木材を供給することが、私たちの目標地点の1つとしてあります。

私たちがそうであったよう、これからも小田原が今までと変わらない姿でいられるには、私たちの世代が任された時間はしっかり受け持ち、後世の人たちへバトンタッチしていきます。